

---

○議長（藤井 要君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

（午後 1時00分）

---

◇ 田 中 道 源 君

○議長（藤井 要君） 一般質問を行います。

通告順位3番、田中道源君。

（1番 田中道源君 登壇）

○1番（田中道源君） 通告に従いまして、壇上より一般質問させていただきます。まず、3日前に市町対抗駅伝が開催されました。今年も松崎町代表の皆様に勇気づけられ感動をいただきました。町を代表して走り抜いていただいた皆様にお礼を申し上げたいと思います。今年、コロナの関係で前夜祭もなく、応援もわずかという中、町長をはじめとする、教育長、議長が当日に、やはり町を代表して応援に行っていたことは、誠にありがたいことでありまして、さぞかし選手の皆様のお力になったことと思います。また、一昨日、12月6日に消防団によるチェーンソーの訓練が伏倉の河原で開催されました。その際にですね、町長、総務課長が視察にお越しになられまして、団員の士気は上がり、中身の充実した訓練であったと認識しております。わずかな時間ではありましたが、非常時に備えた訓練を指揮官である方が自ら足を運ぶ姿に一団員として感動いたしました。非常時において指揮官は指揮官の役割がありますので、現場に足を運ぶことはないでしょうけども、平時からそのような姿を拝見できましたことは、現場での対応に大きな力となることと思います。残り1年ほどの町長の任期となりますけども、松崎町民にとって町長の存在はとても大きいものです。お互い立場は異なりますが、町民のためにお互い精進していければ幸いですと思っております。

今回の一般質問では、2点質問させていただきたいと思います。1点目は、鮎川地区の活用について、2点目は危機管理についてです。本日もよろしくお願いいたします。

壇上からの一般質問は以上です。

（町長 長嶋精一君 登壇）

○町長（長嶋精一君） 田中議員の質問でございます。1番目、鮎川地区の活用について、そのうちの3つございます。1は事業の概要はどうなっているのか、2つ目、今後のスケジュールはどうなっているのか。3つ目、仮橋撤去後に、改めて橋を架ける計画はあるのか、ということでございます。3つお答えをいたします。

現在、南郷鮎川地区では、伊豆縦貫自動車道建設に伴う建設発生土の受け入れをしており、大型トラックにより大量の土砂が搬入され、土地の埋め立てを行っており、埋立て後は広区画の優良農地の整備が予定されております。計画では今年度末までに発生土を21万立米受け入れ、4.6haを埋め立て、このうち農地は2.7ha、公共施設用地1.2ha、残りは道路や水路などが整備されることになっており、地権者の皆様で構成する鮎川地区基盤整備推進協議会会員39人により、換地業務や整備された農地の活用などについて、協議を行っております。今後のスケジュールですが、現在の土砂搬入作業は来年3月までに終了する見込みで、それに併せ、仮橋も撤去されます。そして、令和3年度から2年間では場や道路、用排水路の整備、鳥獣害防止柵の設置などを行い、その後は確定測量や農地の換地処分が行われて、令和6年度までに農地整備事業が終了する見込みであります。それから、仮橋撤去後に改めて町で橋をかける計画ではありますが、過去に事業費が多額になるため断念をした経緯があることから、現時点では町の財政事情を勘案し、橋ではなく、伏倉橋からの道路を拡幅するアクセス道路の整備を検討しております。

4つ目の質問でございます。活用について役場内の課を超えて、話し合う計画はあるのかというご質問でございます。回答いたします。

造成された農地の利用については、鮎川地区基盤整備推進協議会で検討しており、おおむねの利用計画は決まっている状況であります。また、今回実施している箇所は津波浸水区域外にあることから、この事業で公共用地を取得し、役場内の課を超えて設置されている公共施設配置検討委員会において、様々な観点から公共施設用地の活用方法を検討していきたいと考えているところでございます。

大きな2つ目の質問でございます。危機管理についてのうちの1つ目。9月1日に役場で行われた防災訓練の目的は何かということでございますが、回答いたします。

9月1日に行われた総合防災訓練は、地震発生時に地域で住民がとるべき行動や地域内の危険箇所を再認識するとともに、初期消火訓練や救護訓練など、地域や家庭での防災対策による減災と、町民の自助・共助の意識の高揚を図るため行いました。町内35自主防においては、それぞれに実施計画を立て消火訓練や避難訓練、避難所運営訓練などを行い、地域防災力の向上を図りました。役場においては、職員の参集訓練を行い、7時55分には全職員が登庁を完了いたしました。私も登庁後、松崎地区・江奈地区・岩科地区自主防の訓練状況を現場に出向き、確認をしたところであります。また、本年度は、災害時の情報の処理の流れや、さまざまな事象に対して瞬時の判断・指示ができるよう災害対策本部運営訓練を8月31

日に行っており、例年9月1日に行っている災害対策本部会議は行いませんでした。

危機管理の2つ目でございます。11月10日の爆破予告にどのような対応をしたのかという質問でございます。回答します。

11月10日午後4時30分に松崎町役場を爆破する予告メールが8日の日曜日に送信され、翌日9日、月曜日、朝にメールを確認したことから、直ちに下田警察署松崎分庁舎刑事課へ通報し、状況説明を行うとともに対応について協議をいたしました。その後、全職員へ情報周知と対応についての協力依頼を行い、課長会議にて情報共有を行いました。対応といたしましては、9日と10日に庁舎の見回りを行い、不審物がないか、職員で手分けして定期的に確認するとともに、爆破予定時刻の10日午後からは、役場の出入り口を人の通行が確認可能な正面玄関のみといたしました。他はすべて施錠いたしました。また、下田警察署員が周辺を警戒し、町職員は出入り口の監視警戒にあたり、西伊豆消防署は役場周辺で待機をいたしました。なお、爆破予告の午後4時30分を過ぎても、状況に変化がなかったことから、午後5時に庁舎をすべて施錠し、警戒を解除いたしました。

以上で田中議員の質問にお答えいたしました。

○1番（田中道源君） 一問一答で。

○議長（藤井 要君） 許可します。

○1番（田中道源君） 色々とお答えいただきました。それでは、まず、最初にですね、鮎川のことについてお尋ねしたいなと思います。鮎川の方の先ほど使用法として農地と公共用地と 道路と水路と、この3種類あるのかなというご説明だったかと思います。そして、その農地に関しては39名の方々に分け合うような、そんな計画が進んでいるっていう、お答えだったかなと思うんですけども、この公共用地の所ってのはどのような使い方をしていくのか、今計画があれば教えていただけますでしょうか。

○産業建設課長（新田徳彦君） 今、公共施設用地ですね、そこの活用方法という事で、ご質問がございました。それにつきましては、4.6haを全部で埋め立てをしまして、約3割ほど、1.2haを公共施設用地にというようなことで、この事業が平成27年度から始まりまして、それ以降ですね、課内でも色々どういう使い方が、良いのかっていうので、協議をしてきました。例えば、学校であるとか、病院であるとか、役場庁舎であるとか、または防災公園であるとか、色んなあれが出たんですけども、最終的な・・・これにするっていう・・・、まだ確定に至るところにはまだ至っていないと、そのような状況でございます。

○1番（田中道源君） 今、確定に至ってないということでございます、先ほど農地の方は

令和6年度から、農地として動き出すということだと思いますので、そちらと合わせるとしても、ちょっとまだ話し合う余地ってのはあるんだろうなと思いますので、現状としては確定はしてないというお答えだったかなと思います。そうしましたところ、これちょっと提案というか、こんな可能性はないかっていうちょっと質問したいと思うんですけども、例えばですけども、ちょうど、洪水というんでしょうか、氾濫区域から外れてるということで、災害時ですね、やはり拠点としてふさわしい場所ではないかなという風に思います。その中で、ですね、これまでは、例えば防災ヘリの発着地にするなんていうアイデアを聞いたこともありますし、まず、それがあろうのかどうかっていうのが、1点ともう1個はですね、やはり防災の関係なんですけど、仮設住宅地というんでしょうか、の用地として、そこを確保しておくっていうような考えがあるかなっていうのを・・・、教えていただけますでしょうか。

○産業建設課長（新田徳彦君）　ただいま、公共施設用地の活用の方法ということでヘリポートですとか、仮設住宅地として活用いかなものかというようなご質問だったと思います。それにつきましてはですね、以前にもヘリポートという案が出てきておりますので、それらも当然視野に入っておりますし、また、町内全域で大災害が起こった時に応急仮設住宅の用地としては、まだまだ不足しているところがありますので、私の所の産業建設課ではですね、そういった応急仮設用地の敷地としても使えるのかなというようなところでございます。いずれにしてもまだ色々な活用方法は考えられますので、これらにつきましては、先ほど町長の答弁の中でもありましたけれど、公共施設配置検討委員会っていうのが、これ管理職以上でもたれている委員会がありますので、その中でも、また今後ですね、随時、協議しながらですね、また、その結果、議員の皆様にも情報提供しながらですね、最終的にどういったものかいいのかっていうのを、やっていきたいなと考えているところでございます。

○1番（田中道源君）　わかりました。今はそのまま防災ヘリと仮設住宅の話なんですけども、仮設住宅の件で、もう少し、ちょっと提案したい事としましては、公共用地で1.2haということですけども、これで十分な広さなのかどうかは、ちょっと、今、何とも言えませんけども・・・、例えば、今、農地になっている部分の2.7haのところも、そういう災害時の時には、町で買い上げるので仮設住宅地として準備させて下さいというか、そういう契約というかですね、前もって農家の方に言うておくということもありなのかなあと思うんですけど・・・、そんな考えはありませんでしょうか。

○産業建設課長（新田徳彦君）　そもそも農地を造成しての基盤整備事業というものがです

ね、伊豆縦貫道の建設残土なんかを今、盛り土している状況なんですけれども、そもそもは、その全体の中の約3割程度が公共施設用地というようなことになっています。農地につきましては、今後の県営の中山間整備事業なんかで補助金を・・・、負担金を払うんですけれども、県のお金なんかも入れながらですね、整備していく関係がありますので、あくまでも応急仮設住宅地は・・・、やったとしても公共施設用地内ということで、それで不足してるものについては、町内の他の所で候補地を模索するというような事になります。

○1番（田中道源君） 法律上のこととかもあると思いますので、一つこれから色々調べていただいたりとかが必要になってくるかと思うんですが、農地で持ってる場合、例えば農地法の関係とかで、なかなかもう農地から転用するのが難しかったりする事実というのがあるのかなと思います。で、その一方で、もしできることならば、農地を売りたいよと言っても、なかなか売ることが、ハードルが高かったり・・・、っていうことの中で、非常時の時には、それを町に買い上げて、宅地として使うという中で、ですね、これはあくまで可能性としてですけども、農家の人からすると農地として手放すよりもそれよりもちょっと金額の高い金額で、町に、宅地まではいかないにしても、その中間ぐらいの金額で、買い取ってもらえるってなると、農家としてもありがたい話な可能性もなきにしもあらずかなと思います。もちろん、どうしても農地として続けて行きたいよっていう方もいらっしゃるでしょうけれども、ちょっと、一つのですね、選択肢として、そののところも踏まえて検討していただけたらなあと思うんですけど・・・、その検討する余地はありますでしょうかね。

○産業建設課長（新田徳彦君） 農地を・・・、例えば宅地にする場合・・・、転用と言いますがけれども、その場合に農地法の規制がやはり絡みます。いわゆる農地法の5条なり4条なりの許可申請という形になりますけれども、まあ、どうしても耕作しないよと、買い上げてほしいよと言っても、ある程度、やっぱり、町としてもですね、その土地を求めるわけですので、例えば、庁内の中では、その、行政調査委員会の方でその辺の諮問、答申をしなければなりませんし、その辺は、やっぱり、関係機関と協議しながらですね、やっていく必要があるのかなということで、捉えております。

○1番（田中道源君） もちろん、今すぐにですね、できます、できません、っていうのを求めるわけではないので、是非、ちょっと6年まで多少時間がございまして、そういうやり方が大丈夫なのかどうか、いわゆる1.2haだけで事足りるのかどうかも含めてですね、ちょっと検討の一部にさせていただけたらと思います。これはもう結構でございます。

仮橋の撤去後に橋を架ける計画についての質問については、まあ、多額なお金がかかると

ということで断念した経緯があるというふうに、先ほどお答えいただきました。大体その費用としては、このぐらいだよっていう、把握している部分がありましたら教えていただけますでしょうか。

○産業建設課長（新田徳彦君） 先ほども・・・、ちょっと質問をすいません、ちょっと補足をさせていただきますと、今現在ですね、農用地にするところが、2.7ha程あるわけなんですけれども、こちらについては、事前に意向調査を行いまして、自分で耕作したいよとか、後継者に任せたいよとか、そういった方があったんですけども、もう耕作をやらないで売りたいよというような人がおります。そんな中で、今回、造成される農地については、自分で耕作したいエリア、それからやる気のある方にお貸ししたいエリアっていうのを分けまして、他の方にお貸ししたいよというエリアについては、例えば農業振興会の方に声をかけてもらって、ですね、やる気のある方にそこを、例えば柑橘ですとか桜葉ですとかやってもらうっていうことで、ある程度、そこについては、もうほとんど青写真のものが、できておりますので、転用したい云々というのは、ちょっと今の状況では考えられないというような状況でございます。それから、仮橋を撤去してから、本橋をやる場合ということですけども、これ、前の資料なんかを見ていったんですけども、大体ですね、橋をやった場合に3億6千万ぐらい、当時の資料ですと国県の補助金が9千万ぐらいですかね、それで町の負担金が2億7千万ぐらいかかるよと、なおかつ、その橋を設置することによって、あそこはバイパスになっているもんですから、右折レーンが必要じゃないかというような議論もありまして、右折レーンを設置した場合には、道路をかさ上げするとともに、300mの区間ですね、道路改良が必要だよというような事。それについてまた用地買収ですとか色々出てきまして、なんだかんだで、トータルいたしますと5億円を超えるのではないかというような議論があったみたいです。で、やはり、当時も今もそうですけれども、やはり5億円近いお金を今のこの財政事情の中でですね、やるっていうのはどうかなっていうことで、諦めた経過があると・・・。で、それにつきましては、このアクセス道路ということで、9月定例議会の補正予算の中でですね、農道伏倉山崎線ですか、その、道路の改良工事に伴う設計業務委託ということで、200万円を、措置をさせてもらいました。この農道につきましては、県道から伏倉橋を渡って、左側に行きますと、鮎川の方に行きますけれども、その農道、今現状、ずっと、狭いもんですから、そこを拡幅してですね、鮎川地区の方へのアクセスを良くしようということで、今は橋はかけないで、アクセス道路を重点的にやっているところでございます。

○1番（田中道源君） お答えいただきました。そのアクセス道路の事について、ちょっと、お尋ねしたいんですけども、確か、今かかっている伏倉橋の辺りが、私の認識があつていれば津波の浸水区域にギリギリかかるか、かからなかったかな・・・、ぐらいのところだったかなと思うんですけども、そこが、今回、実施設計して、新しく架けるといものが、その津波の対策にあつたものなのか、どうかってのを教えていただけますか。

○産業建設課長（新田徳彦君） 津波浸水マップなんかで見ますと、今、議員おっしゃられたように、伏倉橋の所、かかるか、かからないか、ぐらいのところかな、というところがございますが、仮に伏倉橋が通れなくなっても、今度、宮ノ前橋から迂回してくる道路もあるというようなこともありますので、現状ではですね、一応アクセス道路、先ほど言いました農道の拡幅工事ということで今考えているところがございます。

○1番（田中道源君） 今、伏倉橋の他にも、宮の前橋が迂回路としてあるというお話でしたが、こと津波に関しては、宮の前橋の方が海に近いのでより危険度が高いのかなというふうに思います。それを迂回橋だというふうに認識していたとすると、それはちょっと、それは違うのかなと・・・、その中で、やはり、伏倉橋も、新しい仮設のところをしないとしまして、これから使い道ってのはですね、どうなるかはまだ決定していないにしても、もし、防災の関係で考えるのであれば、やはり津波対策というものを考えたものにする必要があるんだろうなという点が一つ心配な点でありますし、それを踏まえて、農道を拡幅して、かかった費用というのが、この新しく道を・・・、橋をかけるのと比較してですね、どっちが、コストパフォーマンスが良いよとかってというような検討ってのは、されたかどうかは、ちょっと、確認させていただいていいですか。

○産業建設課長（新田徳彦君） 特に経済比較とかってというのは、まだ資料が全部整っているわけじゃないもんですから、経済比較等はしているわけではありません。ただ、宮の前橋につきましては、県の方で耐震補強工事も行われておりますので、津波が来てもですね、そう簡単に壊れる橋ではないと認識しているところがございます。伏倉橋につきましてもですね、実際の耐震化されてるのかどうか、ちょっと調べたんですけども、ちょっとそれが補修なんかはやっているんですけども、耐震補強的な事やってないということがあつたもんですから、それについては、ちょっと今後の課題ということで検討しているところがございます。

○1番（田中道源君） 伏倉橋の件、宮の前橋の件、新しい・・・、もし、やるとしての仮設の新しい橋の件と、よくよくですね、検討していただいて、より良い計画で進めていただきました

いと思います。

この件で、最後にもう一個、聞きたいことがあるんですが、まだ、検討段階ということでしたら、例えば、学校の用地として、使う可能性もあるのかなと今思いました。ちょうど、西伊豆町で、今、小中学校の統合の話が進んでおりますが、西伊豆町で今話し合われていることというのは、実は松崎町にとっても対岸の火事ではなくてですね、追々、10年後、20年後、子供の数が減ってきた場合に両町の子供が、同じところに通うってことがあり得るのかなというふうに思っております。そうしますと、今、西伊豆町で進めている話というのは、それを見越した上での新築しようっていうようなことしてると思うんですけども、今あちらの方でもなかなかですね、難航しているようでございますので、例えば、用地として松崎の方でも、あるよっていうような話し合い自体が、西伊豆町とされたのかどうか、お聞きしてもよろしいでしょうかね。

○産業建設課長（新田徳彦君） まだ、学校用地にしたいとかっていう話が、決まったわけじゃないものですから、もし、そういう方向になれば、当然、近隣の市町さんにもそういった情報提供はするのかなと思うんですが・・・。ただ、当初公共施設用地をどうしようかということで、役場内部で話しあった時に、学校の施設用地っていう案も出ました。ただ、あそこにつきましては、日当たりの面で、ちょっと、問題があるんじゃないかっていう声もあったりしまして、良い面もあるかもしれませんが、ちょっと悪い面もあるという事で、現状ではそのままになっているというような状況でございます。

○1番（田中道源君） それでは、日当たりも悪いし、ということで、あくまで松崎町内の中では、そういう話がされたということですけども、今後、西伊豆町とそういう検討するような可能性というか、機会というのはありますか。

○産業建設課長（新田徳彦君） 先ほどから申していますように、まだ、町の方針として、この公共施設用地をどうするかっていうのはまだ決まっていないわけございまして、それを、まず決めるのが先でございますので、もし、それが、例えば、学校施設用地というような事になれば、それが今言われるような西伊豆町さんですとか、そういった話を持って行けるのかなと考えています。

○1番（田中道源君） それでは、分かりました。わかりましたので、次の危機管理の方に進めさせていただきたいと思います。

9月1日の防災訓練の件なんですけども、町の方はそれぞれ自主防とか・・・、いうようなことでご説明があったとおりにかなと思います。役場の中でも、その時にですね、いわゆる参



集訓練というのを、なさっていたということで、一応、先ほど7時52分に参集が終わったというふうなお答えいただいたかなと思います。9月の時にやはり、これについての質問をした際に、確か、町長来てないというのを・・・、町長は来ないけども終わったというふうに、確かお答えいただいたなと思っているんですけども、今一度確認させてもらってよろしいでしょうかね。その、7時52分に・・・、完了したから、みんな揃ってたよってというような答えということでよろしいでしょうか。

○総務課長（高橋良延君） 9月1日、役場においては職員の参集訓練を行いまして、町長においては7時52分、役場に登庁いたしまして、全職員については、7時55分に登庁が完了したということでありまして、本部長並びに全職員の参集は全て7時55分には、完了したということでございます。

○1番（田中道源君） ちょっとくどいようであれなんですけれど、9月の議会の時に、45分には解散していたという認識で私終わっていたんですけども・・・、それは、こちらの方が、認識が間違っていて、7時55分の方で、皆が揃ってから解散したってということで、今一度確認したいんですけど、それであっていますか。

○総務課長（高橋良延君） 課長の集まりが7時45分には解きました。解散いたしました。従いまして、その時には、町長はその課長の中の集まりにはおりませんでした。が、そのところは、参集訓練でございますので7時52分には町長は役場に登庁が完了してるということでございます。

○1番（田中道源君） また、9月の時の話で恐縮ですけども、前日にですね、町長は来ないという話が、ついていたものでこの参集訓練は課長たちで集まったところで解散したということなんだろうなと思いますけれども、この参集訓練の意味合いとして、やはり、町長、対策本部の本部長になる方でありますから、やはり、そこにいるべきだとは思いますが、それが、いなくても、この参集訓練自体は成り立ってるもの・・・、要は成立しているものかどうかというの、ちょっと確認をさせていただいてよろしいでしょうか。

○総務課長（高橋良延君） 9月1日のこの訓練は、情報を受信して役場へのくらいで登庁できるか、参集できるかという訓練でございます。ですから、例年役場へ参集して、通常は本部会議をそこで行っているんですよ、今までの・・・。ですけども、今年は町長言いましたように、本部会議については、この9月1日の時には、行いませんでした。前日に実践的な訓練を行っているということで、それを代替的にやったもんですから、9月1日は、本部会議は行いませんでした。従って、何時に役場へ登庁できるかという形の参集の訓練でござ

ざいます。

○1番（田中道源君） その参集会議に、要はメルポコというのが流れていつ、何時に、どのくらいかかるっていう訓練だということはわかりました。その中でですね、町長が来られたのが、52分ぐらいということで、それはいいんですけども、確か、これも、9月の議会の時に、町長がメルポコは当時、まだ導入されていなかったというふうに聞いております。それは、いわゆる、本部会議をしないから、メルポコを入れなくていいのとはちょっと違うんだろうなと思うんですね。この時点でメルポコを町長が入れていなかった事、これに関する、当局の・・・、なんていうんでしょう・・・、それが、良かったのか、悪かったのか、どういうふうに認識してるのか、ちょっと教えていただけますか。

○総務課長（高橋良延君） メルポコは職員の安否確認システムです。通常メルポコは、職員、町長含めて職員に入れてもらうというようなことで、町長については、当時、僕が説明したのは、町長の携帯電話自体にメール設定をしていなかったというようなことが分かって、それで、メルポコじゃなくて、携帯電話で直の連絡ということになっていました。以前から、それは、なっておりました。そういったことで、直接何かあると連絡してという形を有事の時には、取ってきたわけです。ですけども、メール設定をして頂きまして、今現在はメルポコの設定の方は、やってるということでございます。田中議員からもありましたように色々なことで、情報が取れるように、連絡を取れるようにというなかで、対策を取りました。

○1番（田中道源君） 色々な方法があることは、もちろん良いことだと思いますし、それはその通りだと思うんですが、一応メルポコっていうのを入れる意味としては、大勢の人に時間かけている時間がないわけですね、その中で一斉に配信して、それをすぐに安否確認が取れて、次に活かしていこうっていうものだと認識しております。それに、やはり、それはいろんな手段があつていいと思いますけれども、そのいろんな手段であるメルポコをその当時、本部長である町長が入ってなかった事は、やはり、僕は問題じゃないかなあと思うんですけども、それについてそれでも良かったんだと、それでも全然問題ないよ、っていうことなのかどうか、一応、お考えを教えてくださいませんか。

○総務課長（高橋良延君） まったく、それは問題ないとは言っていないです。ただ、言いましたように色々な連絡手段、そういったものを取らなければならないというようなことは、私どもも当然認識しております。ですから、町長、メールの設定ですか、それを携帯になかったためにそのメルポコが設定できなかったということであれば、すぐにメール設定をしても

らって、メルポコが機能できるように、ということで対処をさせていただいたところがございます。

○町長（長嶋精一君） 田中議員が、それにこだわって質問しております。田中議員は12月6日日曜日の防災訓練の時に、先ほど、町長である・・・、我々の事を・・・、危機管理で一生懸命やってくれたという言葉がありましたが、逆に怖いなと思いましたが、やはり、そういうふうに逆の質問がございます。消防団員として当時・・・。

（○5番（深澤 守君） 「議長、答えになっていないです。」）

○町長（長嶋精一君） 今から、答えます。チェーンソーでやっていただいてありがとうございました。そして、今の質問でございますが、いろんな手段で危機管理はやった方がいいと思います。先ほど、説明がありましたとおり、私は、もう7時52分には役場内に到着しておりました。おそらく、田中議員に、誰かが、町長がいなかったっていうふうに言った人は・・・、私が役場内にいなかったと、いたことを知らなくて報告したんだと思いますが、私はちゃんとおりました。そして、松崎地区それから岩科地区といった所の自主防災訓練に参加して現場をしっかりと確認をしたわけでありまして。そのようにどこに行っていたわけじゃなくて、ちゃんと現場を見ていた、これは、町長の大きな仕事だと私は思っております。

○1番（田中道源君） 色々な手段っていうのは、私も大事だと思います。その中で、当時、町長と連絡つく手段が携帯電話だけだったんだろうと・・・、いわゆる色々な手段には該当していない。他の方々はメルポコもあったり、やれたんでしょうけれども、その1つの手段であるものを導入しなかったのはやっぱり事実だと思います。それを別に他にもあるんだからいいじゃないか、とするのか、しないのか、それを聞いたかったですけれども、やはりメルポコというのを皆で運用しているんですから、その本部長である町長、入っていて当然のことなんだろうと、そういう認識で僕はいます。それが入ってなかったことが、入ってなかったからダメなんじゃないっていうような言い方っていうのは、やっぱりちょっと違うのかなと・・・、他にもあるんだからいいじゃないか、ではなくてですね、やはり、一斉に連絡するものっていうのがどういうものか、入ってもなければわからないじゃないですか。やっぱり、それ自体は問題だと思いますので、できればそれについて、それはこちらの落ち度だったよ、って声が聞いたかったですけれども、ちょっとそれいただけなかったもので、それは次の・・・、時間もあまりないものですからね・・・、次に進みたいと思います。

2番目のですね、11月10日、4時半にですね、役場を爆破するとの予告があった日・・・。先程、町長からお答えいただいたのが、9日、10日に見回りして、定期的に確認していた

と・・・で、10日の午後からは正面以外を施錠して、あと警察や消防の方々に応援というか、助けていただいていたというふうに聞きました。その中でですね、ちょっと確認したいんですけども、この爆破予告に対して町長としてはどういう位置付けで対応すべきだと考えていたんでしょうか。いわゆる、結果としてはいたずらみたいな形で終わったのかなと思うんですけども、当時としましては、この件に関してどんな認識でいたのかちょっと教えてくださいませんか。

○町長（長嶋精一君） どんな認識でっていうことは、どういうことを意図しているわけですか。私は当然、本部長として、しっかり部下、職員に伝えてこのようにやるようにということ伝えて課長会議もやって、それと警察にも連絡して、来ていただいて、消防署にも連絡して、配置をしたということで、どういうふうなことでしょうか。

○1番（田中道源君） 今、答えていただいたようなことで、いいんですけども、いわゆる、これは、もう最初から取り合わないで、対応しないよと、これはいたずらだよっていうわけではなくて、やっぱ対応すべきものだという認識をされていたってことで、それは分かりました。で、その中でですね、当日4時までですね、10日の4時まで町長が役場に不在だったというふうに聞いているんですけども、それは本当でしょうか。

○町長（長嶋精一君） そのような質問が来るとは思っておりました。

（傍聴席から笑い声）

○町長（長嶋精一君） 思っておりました。全ての事を予測してね、町長というのは配置をして準備をしっかりやって、そして、それで、結果においては、何もなかったっていうことは、これはですね、危機管理というのは、あるいは組織というのは、町長が不在であっても、しっかりとまわると、というような組織でなければ、それ組織としてはダメです。田中議員も組織という所におそらく入ったことはないと思いますけれども、普通の人たちは・・・。

（○1番（田中道源君） 「すみません。いたか、いなかっただけ、聞ければいいんですけど・・・。」）

○町長（長嶋精一君） だから、4時・・・。

○議長（藤井 要君） 不規則発言は謹んで下さい。町長、続けて下さい。

（傍聴席、どよめき。）

○町長（長嶋精一君） ということでね、しっかりと体制を作っているということが、やはり、組織としては大事であって、町長がいなかったら何も回らないっていうのはダメですよ。町長は、やはり東京に出張したり、陳情に行ったり、静岡に行ったり、あるわけです。

災害だとか危機っていうのは、町長がいるからさあ来ましたというわけではないんですよ。だから、常にそういう危機管理というものは部下にしっかりしておかなきゃいけない。特に、3年前からですね、危機管理の方の担当職員を変えまして、しっかりとした、あの・・・、いろんな学校関係の警備だとか・・・、生徒たちに、しっかり教えるとか、そういうことをやってくれましてね、今、その、危機管理ってものが根付いているというふうに私は思っております。以上です。

○議長（藤井 要君） 残り5分になりましたので、自動延長ということで・・・。

○1番（田中道源君） はい、延長でお願いいたします。あの今、長々とお答えいただきましたけど、いたのか、いなかったのかってのを聞きたかっただけで、いなかったというお答えと認識いたしました。その、いなくなる際ですけども、どなたかに、じゃあ、ちょっと出かけてくるけども、あとよろしく頼むよという、そういった・・・、いわゆる不在であることを伝えて、その時の、不在中の危機管理というのを指示をされていったのかどうか、誰にされていったのかを教えてくださいませんか。

○町長（長嶋精一君） 課長補佐の男であります。総務課の課長補佐に言っておきました。それと、防災の補佐でございます。しっかりと行ってありまして、彼らはその重責っていうか、責任をしっかりと果たしてくれたと私は思っております。

○1番（田中道源君） 今課長補佐に指示していったということでございますけども、その課長補佐っていうのは、ちょっと確認なんですけど松本課長補佐で間違いはないでしょうか。

○総務課長（高橋良延君） 総務課の職員ですね、総務の補佐と防災の松本君でございます。

○1番（田中道源君） 大変残念なことだなと思うんですけども、事前に、私、松本課長補佐に確認をしております、この不在の時に指示とかあったんですかっていうのを聞きました。町長自体が不在にしていることを知らなかったそうです。今、町長のお答えになられたのと全然違うんですけども、これは町長・・・、どういう事でしょう。お答えいただけますか。

○町長（長嶋精一君） 美澤補佐もそういうふうに言いましたか。

○1番（田中道源君） すいません、今、確認しましたよね。松本課長補佐の事であっていますか。そうです。で、僕、事前に聞いていたけど、知らなかったよっていう中で、美澤さんの事は今ちょっと出てないんですが、どうなんでしょう、言ってることがちょっと違うと思うんですけど・・・。偽りを述べられてるのかなというふうに思うんですけども、偽りではありませんか。

○町長（長嶋精一君） 偽りでもなんでもなくですね、総務課の課長補佐、美澤補佐にはしっかりと伝えました。美澤補佐から、私は、松本補佐には言っているというふうに思いました。ただ、行き先については、しっかりとはおっしゃっていません。ただし、彼らは、いつものとおり、自分の責任を果たしたというふうに思っております。偽りだとか、なんとかっていうふうなね、そういう言葉は謹んでもらいたいなと私は思います。

○1番（田中道源君） 私も、この場ですね、偽りじゃないかっていうことをものすごく残念に思っております。なるだけそういった言葉を使いたくありませんし、そんなことをしたくはないんですけども、今のやり取りの中で、言っていたこの流れってのは、明らかにおかしいなって思ったからおかしいなって、言ったまでのことでもあります。これはもうそれについては・・・、もう、議事録にも残る事ですから、いいかなと思いますけども、一つですね、今、美澤課長補佐から松本課長補佐に伝えてあるものだと思った。いわゆる、それが町長がいなくてもしっかり回るってことに該当しないと、そこも思うんですよ。いわゆるもちろん、町長がいなくても、しっかりと機能してくれば、それはそれで良いことだと思います。しかし、俺はこう思う、思った、思った事ができていない、これは機能してないと僕は言えるんじゃないかなと思います。そういった確かに爆破予告の時、実際には、爆破は起きませんでしたけども、実際に起きた時に、俺はこう思ったとか言ったところで、もう始まらないんですよ。危機管理っていうのは、普段からどれだけ準備をしても、それでも想定外が起こる中で、この「はず」だとか、そういうことが町長から・・・、いわゆる本部長から出てくること自体に、私はこの今、当町の危機感というんでしょうか、危機管理能力が物凄く低いんだなっていうのを今実感いたしました。本当に残念なことでありますし、なんとか、これはしなくちゃいけないなと思います。もう1点ですね、関連質問させていただきたいんですが、やはり、ちょっと危機管理の意識についてということで、ちょっと、お聞きしたいんですけども、3日前の市町対抗駅伝に・・・、応援に行かれたということで本当にありがたいことだなと思っているんですけども・・・。前夜祭がないということでですね、元々、前夜祭があれば、町長と教育長と議長と3人で前泊して行くはずだったのが、コロナの関係もあつたりですね、当日入りにしましょうというふうになったと聞いております。ですが、町長はお一人だけ前日入りされたというふうに確認できているんですけども、なにか特別なですね、行かなくちゃいけない理由が、もしあったんでしたら、教えていただきたいなあと思います。なんでかという、コロナの警戒レベルが4の中ですね、今、静岡市っていうのは危ないよ、だから教育長も議長もなるべく当日入りして、その日に帰ってこよ

うってというような対応を取っている中で、町長が前日入りした、どうしても行かなきゃいけない理由を教えてくださいなと思います。

○町長（長嶋精一君）　そういうところまで質問するという事は、こういう議会でいいのかなというふうに思いますけれども、私は、何で前日に行ったかと言いますと、あの、いろいろなことがあるわけですね。それについて、いちいち、ここで皆さんに披露することはないと思います。例えば議会対策だとか、あるいは色々溜まっている仕事をですね、そのホテルでもって、自分で執筆する、勉強するという事は、大事な町長としての仕事であります。だからね、他の町長さん達もおそらく前日で行かれた方も多いのではないかなと私は思っております。

○1番（田中道源君）　実は私も西伊豆の町長に確認しました。そうしましたところ、西伊豆町長やはりお一人でですね、前日入りされたそうです。ああそうなんですねって聞きましたところ、西伊豆町は選手の人と町長が一緒のバスで同行するんだそうです。でも、バスの中でも選手を励まして、心のケアをしてあげながら・・・、行くんだそうです。仮に当日入りしてすると、わざわざ自分ひとりのために運転手を手配しなくちゃいけないし、余分なお金をかけることになるので、私一人だけだけれどもバスと一緒に同行して、前日入りしましたっておっしゃっていました。ものすごいまっとうな話だなあと僕は思いました。いわゆる応援もない、このコロナで不安な選手たちを町長自らですね、バスの中でケアしながら、しかも、当日入りでいいのに、その前日から行って、そこで町長の何か仕事をするとかってことではなくてですね、町のために尽くしている、まっとうなことだなと思ったんですけども。かたや、松崎の方では、前日入している理由ってのが、ちょっと質が違うんだろうなっていうのを今感じましたよ・・・。それどうでしょう。僕は西伊豆町長も確かに前日入りされているんですけども、それは、素晴らしい前日入りの仕方だなあと思いました。しかし、どうしてもこのレベル4の中で、危険だと、警戒レベルがあるからって、議長も教育長も辞退されている、この前日入りっていうのをあえてして、ホテルで・・・、何ですか、仕事しなきゃいけないほどの緊急なものだったんですかね、どうでしょう。

○町長（長嶋精一君）　お答えすることも、非常に抵抗を感じるわけですけども、町長は、それぞれの考え方があります。そして、ホテルで勉強したっていうのはあくまでも町のためであります。それと何よりも田中議員は冒頭で私のことを大変褒めていただきました。後が恐ろしいなと思ったんですけども、そういうどんでん返しがまさしく来ました。私は、その、そういうことをね、やるということは、結構、この伝統的な松崎町議会の議員にはおり

ましたけれども、それを引き継いでいるのかなと思いました。結局ですね、危機管理というのは、私はね、少なくとも田中議員に言われる筋合いはなくてですね、しっかりと町長になってから、いろんな危機管理をやってきました。例えば、現在進行管理をしなきゃいけない、結果管理じゃダメだということで、防災担当とそれから区長さん、それから出れる時には消防署員、三身一体となって、各地区を回りですね・・・。

○議長（藤井 要君） 町長に申し上げます。時間が来ておりますので手短にお願いします。

○町長（長嶋精一君） 危機があったらば、それを手直ししていく、修繕をしていくということをやってきました。ですから、それ以外にもですね、組織体もしっかりとした防災担当を私が作って、その担当者はそれに呼応してしっかりやったと思っております。以上でございまして、危機管理については、しっかりやってきましたので、田中議員がおっしゃるような事は、ないと私は思っております。

○議長（藤井 要君） 田中君、時間が来ておりますのでまとめて終わりにして下さい。

○1番（田中道源君） それではまとめさせていただきます。私は、これまで、今日、質問させていただいたことは、町長の方では、反省するべきところではなく、私の言ってることがちょっとおかしいよ、というような終始お答えだったかなと思う中でですね、私は非常時の対策本部の本部長は町長でありまして、もっと本部長としての自覚っていうのを持っていたきたいなっていうふうに強く願っております。

○議長（藤井 要君） 田中君、時間が来ておりますので・・・。

○1番（田中道源君） わかりました。すぐに終わらせます。

町長の代わりがない中で、現状の危機意識ってのを持っていて、備えていただきたいっていうのが強い願いでありますし、町長自身の行動に責任を持っていただいて、是非、町民のために職務を全うしていただきたいと願いつつ、私の一般質問を終わらせていただきたいと思います。ちょっと遅くなりまして・・・、ありがとうございました。

○議長（藤井 要君） 以上で田中道源君の一般質問を終わります。

暫時休憩いたします。

（午後 1時58分）

---